
千年の恋

李上龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

千年の恋

【Nコード】

N1711B

【作者名】

李上龍

【あらすじ】

色んな形の恋愛を、違った角度から指摘した、5話に至るオムニバス。目に見えないものへの憧れ、自分自身への究極の自己愛、有機物達の報われない愛の形など……貴方が望む愛がありますでしょうか？

第1戀 九龍（カウロン）

第1戀

Ⅰ 九龍 Ⅰ

果てしなき大陸の奥深く。

山河に囲まれし奥間の、四川の更に奥深い、人里離れた社を守りしひとりの巫女。

食するものは、緑あふれた山で採れる山菜を。

飲むものは、豊かに流れし河を。

社に奉られる民からの贈りものは、村を守りし龍神にと。
与えられたるは全て天地の恵み、龍神が与えたもうもの。

民の中に生まれ、いつしか龍神の為に全てを捧げていた巫女。

龍神もまた、巫女が側に居るからこそ、恵みの雨を降らせ、温かき太陽の光を照らし続けていた。

平穏な日々 to 育まれ幾年と月日が満ちた頃、いつしか民は巫女のこととも忘れ、社に足を運ぶ事すら忘れてしまっていた。

巫女はひたすら待ち続けた…民の心が龍神に戻る事を。

巫女はただひたすらに待ち続けた……龍神が怒りを表さぬようにと…

…しかし、その想いは絶たれた。

雷鳴轟き、山河に嵐が吹き荒れ、あらゆるものが生命の意気を絶たれた。

空は曇り、河は波打ち、作物は実を成らさず……

民の幼子は次から次へと命を落とし、女子供は飢えを堪え、男達は今までの豊かな

生活を取り戻そうと懸命に働いていた。

だが、1年…2年と……状況は改善するまでも無く、むしろ村は壊滅に貧していた

……民は龍神の怒りだと、人柱を立て、龍神への捧げものへとした。
……

巫女がいたその社から、龍神が住む『虎龍湖』を渡るその橋に……

……雷鳴は鳴りやまなかった……

むしろ、更にその勢いを増し、やがて村は荒れた河に呑み込まれた。民は必死の体で丘へ登り、空が晴れる事を祈った。

幾晩、幾日が過ぎ、嵐がほんの少し静まった頃…民は生き残った者の中から、巫女

の代わりに新たな御子を選び社へ捧げた。

御子は己の命を顧みず、未だ尚荒れ狂う河へその身を投じた。

沈んだ社へ辿り着く頃、御子は先代の巫女に出遭った。

沈み来る御子。

迎える巫女……

河の流れは穏やかに、2人の遭遇を包み込む。

『額に封じられし風神の、能力を解くは龍神なり。
ちから ほど

龍神の能力を沈めし封印は、鳳凰が持つ。

鳳凰を探せし能力を持つ御子は、

雷神の能力をも封じせし者。』

巫女の額から眩い光が溢れ、天高く延び上がって行った。

荒れ狂う河面一面が光に満ち、天空高く一筋の線を描いて延び上が

って行つた。

龍神の怒りが静まったと、民は喜びのうちに歓喜し、御子の帰りを待った。

しかし…幾度と待てど、御子は帰って来なかった……

…幾日、幾月、幾年、と……………

その身を社におく事で…龍神の語り手となる為に……………

幾度となく民は天地の恵みを忘れ、その度に人柱を立て龍神の怒りを静めようとし

てきた。だが龍神は、村に恵みの光を与えるはずもなく、天地の恵みを忘れ、傲慢

になつた民達の心を清貧に戻す為、龍神は幾日、幾月、幾年と待ち続けたのだ。

だが、民の心は清貧さを取り戻すこのとはなかった……

時代が流れ、村が消えてしまう頃、龍神は再び天地を荒らし、天空高く舞上がって行つた。

民は恐れおののき震え上がったが、龍神は天空へ登つたまま、二度と『虎龍湖』に戻ることとはなかった。

その日以来、四川に青空が見える事はなくなった。

『御子は…御子はどこに…？』

あの美しき巫女も……………』

第1戀 九龍（カウロン）（後書き）

第1戀。。。書き終わりましたf u ｝ @ @ ；
はじめまして。李と申します。知人に教えてもらって早速書いてみました……物語を書くのはもう随分前から書いてはいたのですが、なかなか表に出すことがなく今に至っております…（涙）と…とにかく…！！

無事書けましたので、感想…いっぱいお聞かせ下さい
ちよつとの事でも。。。お願いします^^）では次で^^

第2戀 本能（1）

第2戀

ー 本能 ー

1

ごくありふれたマンションの1室。

春の日差しが心地よい昼過ぎ。広くもなく狭くもなく、部屋の白さが眩し過ぎる

位にどこか暖かさを感じさせていた。

TVの音が静かに流れていた。

ツズジャーーーーっと。

勢い良く水の流れる音がした。と同時にトイレのドアを開け、億劫おっくうな

面持ちでアンナが出て来た。ドアを閉めそのままキッチンへ向かう

と、水を出し

両手を洗い出した。肩までであろうかその髪を後ろで一つにまとめ、

虚ろな眼差し

で手を洗っていた。

両手首には無数の傷跡…浅いものや深いものまで……幾度となく、

繰り返し繰り返し

返し付けられた傷跡。洗っている今でも、ジワッと滲み出てくる紅

い液体……

女は手を洗い終わると側のイスに腰かけた。

「はあ………つつ………また………またやってしまった………くそ
っ………」

深いため息を履きながら、自己嫌悪に苛まれたか、勢い良くテーブルを叩いたぞ

の両手で頭を抱え込んでしまった。

テーブルの上には散々たる食料の残りかす。ジュースやビールの空き缶。

しばらくうなだれた後、女は顔を上げ、テーブルのゴミを片付けはじめた。

乱雑に…粗々しく……

「ついやだ！いやだ！もううまじ、いやっつ！ほんつとにいい加減にこん

な事辞めなきゃ！！

………何で！…何であたしだけっ！

！??？」

バスツつと……云々ながら、片付けだしたゴミに当てつけた。

黙ったまま女は立ち尽くし、鏡に映った自分を見て苛立ったよう鏡を裏返した。

「…はあ…。…痩せたい…痩せたいのお！！

………絶対痩せてやる！！…必ず痩せて、昔みたいなスリムな体に戻って

やる！絶対！絶対にいい！！！！…痩せるんだっ！！！！」

女は自らに云々聞かせるように、声を荒げて叫んだ。

「そうだ！何かしなきゃ…体を動かさなきゃ、そしたら食欲を押さえられる！

何か何か…何か！」

そう云々出すと、女はテキパキとゴミを片付け出し、空き缶を捨て、

ストレッチ

に、腹筋、腕立て伏せ……トレーニングを始めた。
虚ろな表情のまま……

1時間後――。

女の姿は部屋にはなかった。

しばらくして、部屋の扉が大きく開いた。

入って来たのは、この部屋の主の女だ……両手に沢山の荷物を抱えて

……

女は扉に鍵を掛けるとまっすぐキッチンに向かい、テーブルの上に食料を広げた。

広げながらTVを付ける女の表情は、あの虚ろな面持ちではなく、頬に朱みを帯び

た、嬉々とした表情だった。

TVの話題に独り言を返ししながら、特大カップラーメンを開け、湯を注ぐ。

「さあ、何から食べようか？」と、小さな子供のように物色する。
フライドチキン6本、にぎり寿司20貫、焼きそば1人前に天ぷら盛り合わせ……

気休めのサラダか……調理パン10個、ダイエットコーラ1.5×1本、ダイエット

ビール500×6本、お菓子にアイスクリーム、ケーキが数種類――

これだけの量を、つい2、3時間前にも女はたいらげている。そして『食べてし

まった』と云う自己嫌悪で、全てを吐き出しているのだ。

1つ1つを味わいながら、食べている時こそが幸せだと云わんばかりに、女はがつ

ついて喰らっていた。

――餓鬼そのものの様に……

第2戀 本能 (1) (後書き)

第2戀です^^)(;

なんだか思ったよりも長くなっちゃいそうだったので

間あけちゃいましたゝゝたゝくさんの人が読んでくれると嬉しいな
^^)(♪

第2戀 本能（2）

2

「――…何でだろう…なんで食べちゃうんだろう……
食べたくないのに…食べちゃいけないのにつ……！
なんでよっ！……！」

既に食べきつて、既に吐き出し、また繰り返し己を罵っている。

「やせたい……やせたい、やせたい！やせたい……たせたい……！
やせたい……！やせたい……！やせたい……！やせたい……！
っ……！！……！」

叫びながら、鏡の前に屁たれ込む女。

両手の甲には、『吐きだこ』があかく膨らんでいた。近くにあった
クッションに

顔を埋め、ありったけの声で張り上げ叫んでいた。

ふと女は顔を上げ、キッチンへと歩き出した。

再び宿った虚ろな眼差しの先には、しっかりと包丁が握りしめられ
ていた。

魂のない抜け殻の様に、女はふらふらと鏡の前に立ち、自らの醜い
姿を見つめて

いた。

「……そうだ………そうなんだ……無理にやせなくてもいいよ……」

「……と、……ここも………切っちゃえ……」

云々ながら女はニタリと笑うと、包丁を持った右手を振り上げた。

紅い液体を見た。ワインゼリーの様に凝固し、己の手の中で小気味良く震える物

体…… 女は両手に、否己を取り巻くありとあらゆる光景に。凝固した物体が散乱

しているその場所を、恍惚に見つめた。

「……は、ははっ……何……何これ……??
 はははははは……な、何よおお!!これっ……!!!!あ”
 あ・たし……」

[illegible]

!!!!!!

中。ツインエンジン。

この地域中。

日本中に響き渡ると思えるほどの絶叫……

だが、その叫びは何処にも届きはしない。誰にも気付かれはしない。

虚しい轟きだった。

女は全身を丸め込み、つずくま踞りながら、わななく様に震えきつていた。フローリング一面に広がる真紅の海――。その中に散らばるとす黒い肉の塊。

又メ又メとした不気味な沈黙が、空間を臭わしていた。

春の日差しが心地良く、部屋一面を包んでいた。

暖かさが混じった空間は、異様なまでの鉄臭さを放ち、肉が腐りだす異臭を漂わせ始めていた。

鏡の前に丸く横たわる一つの塊…

己が犯した過ちか？己の意志が正しかったと云うのか？

女はニタリと笑ったまま、涙と汚水の混じわる血の海の中、何も語らず、動かなくなっていた。

ただ一言、鏡にその血で残した…

『ワタシハエランダ』

2 戀：成就

第

第2戀 本能 (2) (後書き)

第2戀〱終わりました^^) 気持ち悪くなられた人はいないでしようか?? 申し訳ないです...;) 「何処が恋だ!

〱 ってっっこみ入りそうですが〱恋ですよ恋^^)

「自欲」って名のね^^) ひゃあ〱〱〱逃げろ〱〱

では、また^^) ;

第3戀 追憶（1）

第3戀

Ⅰ 追憶 Ⅰ

1

【マルガの日記】より

今日、あたしの人生の中で、最も喜ぶべき出来事があった。
あたしの愛おしい人！

この世の中で彼の存在だけが、あたしの全てのよう！

17歳の時に出逢つて以来、彼のいない空間など考えられなかった。
照り付ける様な暑い日差しも、凍てつく様な空気の流れも、孤独と
空虚を重なり

合わせて生きてきたあたしにとって、人間と云うひとつの個体から、
彼だけを見つめ、

生きて行ける事をなんと云つて表現すれば良いのか解らない。

昔の記憶など全て消し去り、今後の生き方だけを考えて行きたい。

愛おしいジョージ……

貴方のいない日々など考えられない。

だって……今の私には、貴方だけが生きて行ける唯一の証になる。

このときめきを、解かち合える友もいなければ親もない。けれど

サシャだけは

解ってくれるわね……

明日、ジョージに返事をしなければ……

【ジョージの日記】より

日記を付けようと思ったのは、私の愛する人が日記を付けていたからだ。

初めはどっちつかずのまま、書けるか書けないか？書き方すら解らなかったが、

今思うと…今日この日に向かえてみて、初めて気付いた事ある。

それは愛する人に対する、私の心の流れだ。

自分の肉体とは反して、心は正直にその時の事、その時の想い、情緒、全てを記

し残している！

愛する人と出逢ったのは、私が20歳の時だった…彼女はまだ17歳ではあった

が、どことなく落ち着いて、清麗で気品に満ちていて、それでいて無邪気に自然と戯れていた。

銀河の彼方で輝くレダの様に美しく、何者にも代えがたいほど麗しかった。

彼女は私の望む応えを口にしてくれるだろうか？

ああ！明日……いや、今夜だ。

東の山から照らし続ける朝の光を、この両の目で見るのが怖い！人を愛する事が

これほどまでに恐ろしく、且つ至福に満ちているものなのか？？

…全ては明日解る事。この胸の高鳴りを押さえて目を閉じよう。全ては明日……

00.4.7.

【マルガの日記】より

云ってしまった。応えてしまった！

ジョージに……『I do』と………！！

ああ、あの人のあの笑顔！！ あたしをまるで宝石でも見つめる様に光り輝き、

熱く抱いていた！

この時の事を一生忘れない！ どんな事があっても！！

あの人だけを見つめて行こう、ジョージだけを！

あの人にこの身を尽くし、あの人の思念を大きく包みこんであげよう。

どんな嵐が吹き荒れようと、どんな雷いかづちが落ちようと、どんな豪雨が海を荒らしても、あたしはあの人の為にこの命を差しだそう！
心の底から…本当に、愛するジョージの為に！！

1
9

00・4・8・

第3戀 追憶（1）（後書き）

おまたせで〜す^^）
誰もまってないか〜）（笑）

第3戀 追憶（2・3）

第3戀

Ⅰ 追憶 Ⅰ

2

【ジョージの日記】より

聞いた。私の耳は間違いなく、彼女の声を聞いたのだ！

美しい白百合の蜜の様に甘い吐息が漏らした一つの言葉。間違い様
のない

ただ一つの言葉だ！ 彼女は云ったのだ！ 『申し受けると』！！
何たる喜び、何たる幸福！ 神の御前で今すぐ跪き、共に生きる証
の印を

築きたいのに！ 時はなんと緩やかに流れて行くのだろうか…待ち
遠しい

……彼女の返事を持った時以上に、待ち遠しい。

二人が共に生き始める最初の日が！！

4・8・

1900・

【ジョージの日記】より

この日、この時、この気持ちを、私はどれほど待ち望んだ事か！

生きている喜びを噛み締めながら、愛する人と真実を解ち合う。

たとへ全世界が朽ち果て様とも、私は彼女だけを見つめて、守り続
けて行

くだろう。出逢いから最後の時まで、私は彼女と共に悩み、悲しみ喜び
慈しみ、そして祝福し合うだろう。この貧しい時代ではあるけれども、
自由と平等を勝ち取るべき背景思想のただ中で、私は彼女だけを、
私の人
生の残り全と引き替えてでも守って行く！
この決意が、私の生きるべき導となるであろう。

13 .

1900 . 6 .

【マルガの日記】より

式の準備など、どのようにすれば良いのか全く解らなかった。周りの人達

に手伝ってもらいながら、やっと事が運べた。

愛する父と母に、今日この日の姿を見てもらいたかったのに、私を育てて

くれた父と母は、もう他界してしまった。本当の父と母も……もうとつく

に他界してしまっているのかもしれない。あたしはこの世でただ独りだっ

たけれど、今日からは違う、ジョージがいる！彼がいれば、どんな困難

だって乗り越えてみせるわ。彼となら生きて行ける！

……この日記を付けるのは、おそらく今日で最後になる事にしよう。
ジョージとの新しい日々は、きつと言葉にして書き残す事の出来な

いほど

素晴らしく幸せに満ちているから！

鍵をかけて…あたしの心の安らぐ場所へ埋めてしまおう。

さよなら、あたしを育ててくれた、父と母へ……………

最後の言葉になるかも……………

1900・6・

20・

3

「ジョージ・スペンサーとマルガレーテが結婚したよ。」

暗闇の中、男の声が響いた。

冷たく透き通った若い声と、もう一つ……

「きやつには告げん方がいいじゃろうて……」

囁れた声。

「…ふむ。じゃ、この事を知っているのは、俺とあんただけになるんだ。」

「じゃな。」

「くれぐれも神祖に告げ口はせんようにな。」

男は笑いながら、更に闇の奥へと消えて行つた。

囁れた声の主は複雑な面持ちで、ただその場に立ち尽くしていた。風だけが、

何かを語りながら通り過ぎて行つた。

――夜。

若い男と若い女が手を取り合って、月明かり差し込む野道を走っていた。

時間だけが空虚に過ぎて行く。刻々と……

誰も気付かぬよう、誰にも解られぬよう、男と女は走り続けた。何処までも、何処までも――――

闇夜。

遠い昔、誰かが云っていた。この世の終わりとあの世を結ぶ黄泉路が、月の

笑いによって示されると。

二人を導くのは月。

月がニタリと笑う、その真下で紅い服を着た、目も鼻も無い少女がニタリと、

合わせて笑った。

第3

戀成就

第3戀 追憶 (2・3) (後書き)

つづきで〜っす^^)

やばい！(2)で終わる予定が終わらなかった…

(3)があるので待っててね〜って

文字足らずだったので一緒にしちゃいました…

すみせん…()

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1711b/>

千年の恋

2010年10月9日01時54分発行